5 月研修会報告（案）
～修習技術者のための修習ガイドブック 第 3 版の解説～

修習技術者支援実行委員会　委員
和田祐二（技術士　建設／総合技術監理）

1　研修会概要

日　時　平成 27 年 5 月　9 日（土）
　　13 時～19 時 30 分
主　催　公益社団法人日本技術士会
　　修習技術者支援実行委員会
会　場　日本技術士会会議室（葺出第二ビル5F）

2　研修会参加者（本部＋中国支部）

修習技術者 40 名
技術士 5 名

3　研修会の内容

1　開会挨拶 修習技術者支援実行委員会副委員長	13:00～13:10 川村　智
2　講演－1：修習ガイドブックの目的	13:10～13:30 高橋裕二
3　講演－2：修習ガイドブックにおける基本修習課題と資質・能力	13:30～15：00 神下　栄
4　休　憩	15:00～15:15
5　講演－3：修習ガイドブックにおける修習の実施 ①　全体概要　②　事例	15:15～15：50 ①　奥田榮司 ②　和田祐二
6　休　憩	15:50～16:00
7　質疑応答，ディスカッション	16:00～17:00
8　休　憩	17:00～17:15
9　先端複合技術研究発表会 我が家の消音対策	17：15～18：00 山田隆治
10　情報交流会	18：00～20：00

4　研修会の目的

今回の研修会は、「修習技術者のための修習ガイドブック第 3 版」の解説として、技術士に求められている資質・能力について、国際的な整合性を踏まえ、修習ガイドブックの改定責任者により解説を行うものである。

開会挨拶：川村副委員長

10 年以上改訂がなかった修習ガイドブックについて、何故にこのように変えたのか、その目的は何か、これから技術士を目指す修習技術者に対しガイドブックをどのように活用すべきか等について説明を行うものであり、この研修会により、技術士と自身のギャップを把握し今後の修習に役立て、早く技術士になっていただきたい旨激励。

写真－1　川村副委員長　挨拶

講演－1　修習ガイドブックの目的：高橋副委員長

技術士法の改正や技術士プロフェッション宣言、技術士倫理綱領を踏まえ、修習ガイドブック改定の変遷について解説し、第 3 版はサブタイトルを「技術士を目指す」とし、目的を明確化した。

修習の理念と3つの基本修習課題の重要性について解説するとともに、様々な部門や地域等バラエティーに富んだ修習技術者の事例や用語の定義並びにIEAのプロフェッショナルコンピテンシー等を掲載したこと等を説明。

最後にガイドブックは技術士試験の攻略本ではなく資質向上に向け、自身の強みと弱みを分析しPDCAを回すことが重要であり修習活動の拠り所としてほしい旨説明。

写真－2　高橋副委員長の説明

講演－2　修習ガイドブックにおける基本修習課題と資質・能力：神下委員長

修習ガイドブックのコアの部分として、第 2 章：修習の目的・目標、第3章：修習技術者に求められる資質能力について解説。

修習の目的は、優れた技術者として社会的・経済的役割を果たすことであり、修習の理念を達成するための道標として技術士第二次試験の取得があるが、さらにステップアップするため、具体的な目標を設定した上で継続研鑽を行うことが重要。

技術士プロフェッション宣言と 3 つの基本修習課題（1　専門技術能力、2 業務遂行能力、3 行動原則）について定義を明確に解説。

写真－3　神下委員長の説明

基本修習課題と求められる資質能力に関しては、専門技術能力として、基礎知識の理解と応用、専門技術知識の理解と応用、特定の国・地域に関する知識の理解と応用について、業務遂行能力として、問題分析～リーダーシップの8項目について、行動原則として、社会の保全・持続～決定における責任の5項目についてそれぞれ具体的事例を基に噛み砕いた解説がなされた。

最後に資質向上と人材育成の意義、日本技術士会におけるCPDの定義と今後定義づける必要のあるIPDについて紹介するとともに基本修習課題とIEAによるプロフェッショナルエンジニアの要件について解説し、技術者が「夢」を持つことの重要性と技術士を目指して資質向上に研鑽する旨促し終了。

講演－3　修習ガイドブックにおける修習の実施

①　全体概要：奥田委員

修習活動の位置づけ、基本修習課題と資質能力、修習活動の準備、修習活動のPDCAによる実践、自己分析、修習の実施（修習の実行、修習の実施、修習の評価について解説。

2 次試験の受験時にも必要な修習記録シートの具体的作成方法、修習の評価改善シートについて電気電子の技術者の事例を解説。

写真－4　奥田委員の説明

②　事 例 ：和田委員

自己分析の重要性を踏まえ、30 代の電気電子の女性と男性エンジニアの修習事例をもとに、3 つの基本修習課題である、専門技術能力、業務遂行能力、行動原則の自己分析をどのように行ったかについて解説。また、修習課呈の重要性、課題解決能力及びリーダーシップ並びに法令遵守についても言及。

写真－5　和田委員の説明

ディスカッション：全員参加

説明内容等に関する疑問点や質問等に関し、全員でディスカッションした。

CPD時間 50 時間の根拠、OJTは入るか否か、IPDは如何か、特許はCPDの対象となるのか、プロフェッションの定義と社会的ステータス、名称独占と業務独占、技術士法の第二条に定義する技術士として相応しい業務、海外の技術者のレベル等について有意義な意見交換がなされた。

写真－6　ディスカッションの模様

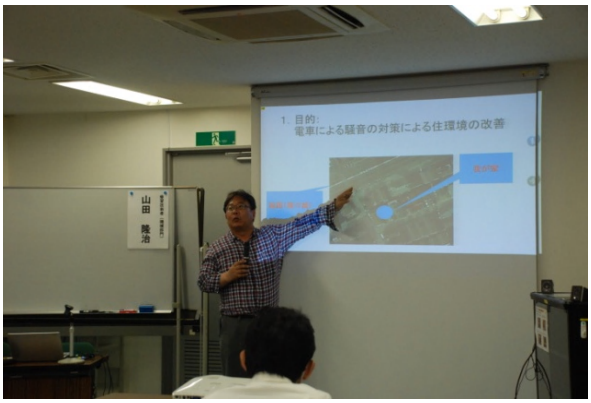
先端複合技術研究発表会
山田隆治氏　修習技術者（機械部門）
発表課題：我が家の消音対策

山田氏の住居は線路脇のため、家屋の建て替えに当たり、静穏な環境を確保するため騒音・振動対策を講じた。

氏は自身の技術的応用能力を駆使し、工務店の選定、工務店への技術指導、工事監督等を自ら行い工務店の規格品と同等の価格で騒音・振動対策を施した家屋を調達することができた。

この一連のプロセスを発表されたものであが、質疑応答では、騒音の算定式に関する質問等に明確に回答されていた。

写真－7　司会の松下委員補佐



写真－8　発表する山田隆治氏